

2026年度日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）日系サポーター コース概要

No	12
所管センター	中国
分野	教育
研修コース名	日系ブラジル人散在地域における、生徒・児童への日本語および居場所づくり支援
受入人数	1
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2027年3月6日（土）
提案団体	特定非営利活動法人ひろしまNP0センター
提案団体ウェブサイトアドレス	http://npoc.or.jp/
研修員必要資格	必須要件・・・本研修終了後、研修で得た知見を活かしてブラジル日系社会の活性化に積極的に取り組む意思があるもの 望ましい条件・・・児童、生徒（18歳未満）に対して、教育機関またはコミュニティにおいて日本語教育指導、または情操教育等の教育指導経験を有するもの
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語およびポルトガル語
日本語能力（JLPT目安）	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	① 日本、特に広島における日系人の現状、課題、多文化共生の取組を理解する。 ② 日本語教室運営手法、日本語教授法等を習得する ③ 居場所づくり、コミュニティ形成のノウハウを理解する。 ④ 事業企画・運営の知識を習得する。
期待される成果（習得する技術）	① 帰国後の日系コミュニティの活性化の担い手となりうる、日系人としてのアイデンティティ構築に資する意識・知見が確保される。 ② 母国の日系コミュニティにおける日本語教育、日本文化紹介等、特に3世、4世等若い世代に対する指導等に必要日本語支援ノウハウ（教授法）が習得される。 ③ 日系日本語教室・居場所づくりに関し、母国の日系コミュニティで実施する際の運営ノウハウ（関係者のまきこみ方、運営方法、イベント等の実施ノウハウ等）が習得される。
研修計画（内容）	講義：日本・広島の日系人の現状と課題、外国にルーツを持つ児童・生徒のサポート体制、日本語教授法等 見学：教育機関における授業視察等 実習：日本語教室運営サポート、居場所づくりサポート、多文化共生にかかるイベント企画・実施等 実施報告：報告書作成、発表会の実施
研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等	広島県は全国一の移民送り出し県として、明治以降多数の県民が海外へ移住し、中南米においては、ブラジルへ約1万2千人、ペルーへ約1,700人の県民が移住しています。 その後、1990年の入管法改定に伴い、主に県内製造業での労働を目的に多数の日系人が来日し、2023年末現在で約2,300名の日系ブラジル人が生活しています。 市町村別では、広島市539名、呉市468名、福山市323名をはじめ、各市町村に散在して生活している他、年齢層も1990年代に来日した世代が高齢化を迎える中、新しく移住してきた若い世代、生徒・児童が散見して見られるなど、世代の多様化も進んでいます。 それら現状に対し、日系ブラジル人が多く生活する上記3市を含む6市にはポルトガル語の相談員（週2日～5日）が配置され、各種相談にのっていますが、日系ブラジル人が広く散在している状況に対し、相談・サポート体制は十分ではありません。 特に児童・生徒の日本語指導、母語指導、教科指導等のサポート体制、保護者に対する生活サポート、各地域の市民団体や有志が運営する日本語教室などが大きな受け皿となっています。 しかしながら、それら市民団体においては、日本語教師の高齢化と担い手不足、母語等での教育・相談が受けられる人材の不足等が課題となっています。 加えて、各団体においては現状の活動以上の活動を行う余力は多くなく、担い手育成にも繋がるであろう、市民への啓発活動、県内で暮らす日系人の現状を知る機会、交流機会の創出も限定されています。 これら現状を改善するためには、各日本語教室の運営体制の充実、ポルトガル語話者も含めた担い手の育成、市民のより一層の在住外国人への意識啓発などが求められています。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	本研修では、約5か月にわたり地域の日本語教室に対し巡回訪問を行うことで、各教室との十分な信頼関係構築を行い、児童・生徒の日本語支援、コミュニケーション支援、母語支援を含めた学習支援に当たること、児童・生徒の日本語能力、生活力の向上等を見込むことができます。また、児童・生徒にとって、年齢的にも近い母国のお兄さん・お姉さんが接することで、日頃相談しづらい相談への対応等も期待でき、児童・生徒のストレス軽減、健全な成長への貢献が期待されます。 また、地域の日本語教室・居場所に外部からの参加が加わることで、日本人市民に対する日系社会の認知、理解が促進され、日系人がより住みやすい地域の形成に貢献できると考えます。 応募者への裨益効果としては、研修を通じ日本社会への理解を深めるだけでなく、①日本語支援能力（日本語教授法等）の向上 ②帰国後の日系社会活性化に資する日本語教室や居場所づくり実施に関する知見・ノウハウの習得 ③多文化共生等に関する事業企画力・運営力 を得ることができます。
期待される国内の中南米出身者のコミュニティへの貢献（活動）	① 日系ブラジル人児童・生徒等の日本語能力の向上 ② 日系ブラジル人児童・生徒等の母国（ブラジル）社会の理解と母語能力の向上 ③ 日系ブラジル人多世代間の居場所づくり、コミュニティ形成の促進 ④ 日系ブラジル人と日本人の相互理解の促進
応募希望者への特記事項	特になし